日本ユーラシア協会　新作ロシア映画上映会　第6回

中継基地

“米ソ連合”時代のサンクチュアリ

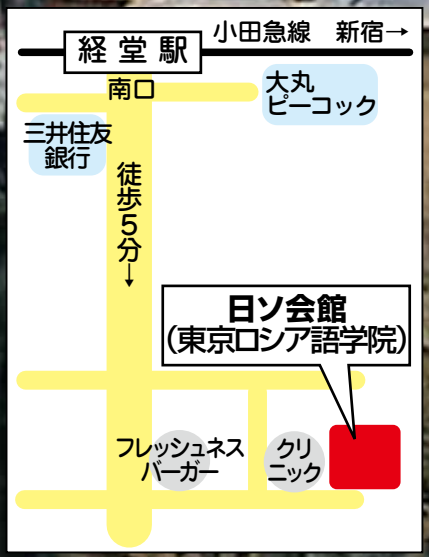
2010 年
9 月23日（木・休）
14:00開会

第二次世界大戦――そのとき世界はまだ“冷戦”を知らず、ソ連は連合国の側にあった。米国の国土は戦火に見舞われることなく、ヨーロッパの連合国を支援し、軍需物資も送り込んだ。当然、ナチス・ドイツ軍と戦うソ連に対しても……。

1943 年、アラスカの対岸にあるチュコト半島。そこに、米軍からの支援物資を受け取り、ヨーロッパの前線へと送り出すための中継基地が設置されている。輸送してきた米軍のパイロットは、みんな女性。ソ連の男性たちは気もそぞろとなる。

第二次大戦中、米国の戦時立法であるレンドリース法（武器貸与法）に基づき、米軍のエアコブラ（P-39）戦闘機約 4800 機、キングコブラ（P-63）戦闘機約 2400 機をはじめとする大量の物資がソ連に送られた。映画はこの史実をもとにつくられたフィクション。戦時中にもかかわらず戦闘からは遠く離れた場所で、冷戦を知らない時代に生まれた奇妙な「聖域（サンクチュアリ）」を描く。戦争がもたらす歪みをユーモアや不条理に変えて描いてきたロゴーシキン監督（『ククーシュカ　ラップランドの妖精』ほか）は、「戦争ではなく人間を描いた」と語っている。

2006 年／ロシア／ 127 分／ビデオプロジェクターによる上映、日本語字幕付き
出演＝アレクセイ・セレブリャコフ、ダニール・ストラーホフ、アナスタシヤ・ネモリャーエワほか
脚本・監督＝アレクサンドル・ロゴーシキン／撮影監督＝アンドレイ・ジェガーロフ／音楽＝ドミトリー・パヴロフ／製作＝セルゲイ・セリヤーノフ、マクシム・ウハノフ

主催　日本ユーラシア協会　共催　エイゼンシュテイン・シネクラブ（日本）

会場
日ソ会館 2F
世田谷区経堂 1-11-2　☎ (03) 3429-8231
会費 500 円
（日本ユーラシア協会会員 300 円）